

教育・事業本委員長特別賞

空と和の軌跡 一天空集落の価値を再編する家—

静岡県 | 静岡県立天竜高等学校 選手 / 2年生4名

和室を水平方向だけでなく垂直方向、すなわち「空」へと開くことで、住空間に新たな精神性と開放感を与えた作品だと思います。「地域に根ざした新しい和室」という課題に対し、通常の畳の配置といった形式的手法にとどまらず、地域の風景や自然環境を室内に取り込む「借景」の概念を現代的に再解釈している点が高く評価できます。最大の特徴は、円形に配置された建築物の中央上部に設けられた大胆な開口計画です。従来の和室は、縁側などを通じて庭という「横」の自然と繋がるのが一般的ですが、本案では住人には日常的に、宿泊者には特別な体験を、空と対話するかのよう空の変化を光と陰影として取り込んでいます。空の色や光の移ろいが畳に映し出される様子は、時間の変化を取り込む日本の美意識として心地よく表現されるでしょう。また、周辺環境や地域性への配慮もなされており、建物内からは、視線が自然に空へ抜ける断面構成により、都市化が進む昨今においても自然との連続性が保たれています。

一方、開放的な木造空間や可動屋根の構造的実現性、半屋外箇所維持管理、気候変動や安全性への具体的対応といった課題も残ります。



和室を機能的な一室ではなく、住人が自然と向き合い心を整える空間と位置づけた点に、この案の独創性があり、日常生活に空を見上げる体験を組み込み、新しい和の暮らしの可能性を示した、造形美と精神性を併せ持つ印象的な提案だと思います。 (田中隆司)

青年委員長特別賞

和のかたち ~ひと間がつなぐ文化~

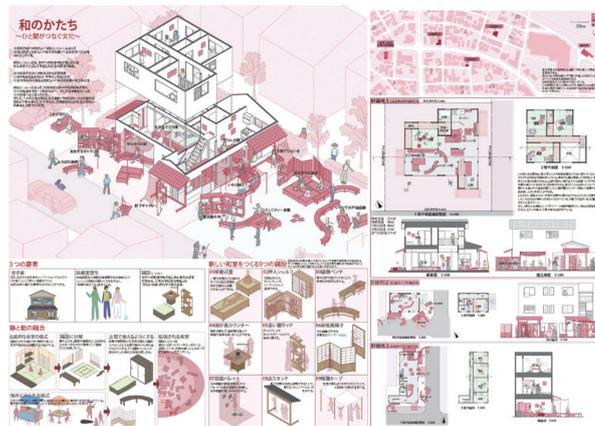
富山県 | 富山県立富山工業高等学校 選手 / 3年生5名



本提案は「舗設(しつらい)」という日本の住文化に内在する概念を丁寧に読み解き、それを和室の様式から解放し、土間・庭・道・まちへと拡張していく明快なコンセプトが高く評価できます。畳や縁側、違い棚といった要素を空間ではなく「行為やふるまいを生み出す装置」として再定義し、移動式・可変式の9つの舗設として具体化した点は、とても面白い発想です。

また、空き家の増加や技能実習生の存在といった地域固有の社会背景を読み取り、戸建て住宅を単なる居住の場にとどめず、緩やかに開かれたコミュニティの拠点として再構築している点も評価できます。1階を土間中心の公共性の高い空間、上階を個室とする構成と、9つの舗設が生み出す多様な過ごし方は、この建物だけでなく、地域で暮らすことの魅力を高めてくれています。

一方で、舗設が街へどのように広がっていくのか、もう一步踏み込んだ提案があると良いと感じました。建物単体でとどまるのではなく、それぞれが融合していく過程にも面白さがあると思います。また、9つの舗設の組み合わせがもたらす空間体験の違いを、具体的な一日のシーンや時間帯の変化として描けると、使われ方のイメージがより鮮



明になると思います。

総じて、伝統と現代、私的と公共、静と動を横断する視点が一貫しており、「和のかたち」を現代社会に更新しようとする意欲的で完成度の高い提案です。今後は社会的・運営的な視点を重ねることで、さらに深みのある建築提案へと発展することを期待し、青年委員長特別賞を贈ります。おめでとうございます。(吉田浩司)